

新聞雜誌
第六五〇號

48
117
415



昭和十年
二月十九日
購求

新聞雜誌

明治辛未十月

定價二匁

水部

第廿號



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハトシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑恠ムク多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日本ノ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 太政ノサマヲモ知ラテ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カタキ世ニ生レシカレ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
 又ハ里巷ノ墳事外國ノ異聞マテ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國
 ノ人々ト新知ヲ開ク樂ヲ同シ頑ナル心僻ノル事ヲ棄シテナリ願ハ此
 ヲ読玉ノ人々マ聞テニテ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ヲ驚可
 喜可キ事多ク唯一隅ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レス夏虫氷ヲ疑メ笑有リト
 知玉ハサテソ復古 大御代ニ生レシ人タルニ負カシト云ベケレ

新聞雜誌第十六號 明治四年辛卯

○神奈川縣知事陸奥氏ノ事ハ外國人頗ル賞賛セル所
 ニテ彼ノ新聞紙ニ載ルコト屢ナリ想ニ應接公正處置
 明決ニシテ能ク内外ノ事體ニ通シ舊弊ヲ改正スル
 多シト見ユ畢竟外人交接ノ地ニシテ開化ノ進歩舊知
 事ニ超ルコト多キヲ以テ此稱賛ヲ得タルナラン
 ○九月廿二日東京靈岸嶋田漕社近邊ニテ弘明丸 横濱
 河蒸出帆ノ砌碇ヲ揚ル機會ニ客二人水夫一人碇綱
 氣船 引レ水中ニ没センガ客二人ハ辛クシテ命ヲ得水夫

ハ遂ニ弱死セシト云

外國新聞支那貨幣ノ事ヲ論ゼシ條ヲ畧抄ス

貨幣ハ開化必用ノ者ナルニ支那ニ於テ善貨ニ乏シキ
 ハ缺典ト謂フベシ其銅錢ハ價微少ニシテ毫釐ニ過キ
 ズ銀貨ハ巨大ノ銀塊ニシテ提携ニ便ナラズ然レモ支
 那人ハ微賤ノ銅錢數千ヲ携ヘ或ハ重大ノ銀塊ヲ持テ
 テ其不便ヲ覺ラズ而メ外國人ハ其銅錢ノ價賤クシテ
 少物ヲ買フニモ足ラズ銀貨ノ提携ニ便ナラザルヲ以
 テ而テガテ之ヲ煥ヒテ用ヒズ販鬻ノ度毎ニ外國ノ貨
 幣ニ換テ計算ス其繁雜知ルベシ支那人動モスレバ其

近國ヲ指シテ夷狄ト賤メドモ此一事ニ於テハ近國反

テ支那ニ勝レリ日本暹羅印度緬甸交趾等ノ諸國皆

各其國ノ貨幣アリ支那モ古昔ハ便利ノ貨幣有テシ

秦晉ノ代ニハ金銀銅ノ貨幣アリ又シヤン詳ノ代ニハ

四テールス六テールス八テールスノ貨幣アリ銀ト錫

トニテ混鑄セリ又漢ノ代ニ粘土ニ印シテ膠ヲ塗レル

貨幣アリ又シノ代ニハ雁眼ト云極小ノ銅錢アリ水

ニ投スルニ能ク浮ブト云其薄キ一亦知ヘシ此錢一萬

ヲ得ザレバ一日ノ糧ヲ買ヒ難シト此頃ノ銅錢ハ此ノ

如ク甚シカラズト雖厄猶大ニ勝タル者ニ非ズト云々

○東京下谷邊ニ住メル某家ニ厄今ノ士アリ主ノ妻ト通シ終ニ相謀リ主ヲ害シ偽テ賊ノ為ニ殺サルト訴ヘシガ主ノ女十四歳ニテ初メハ母ノ威ニ畏レ實ヲ知テ秘シ居ケレド父ノ非命ニ終リシノ悲シサト母ノ不義ニ恚ナルノ悔シサニ忍ビ得ズ遂ニ之ヲ言出テ發覺セシメシトソ

山口縣舊知事毛利元德管内士族中へ告諭書寫我家祖先諸公疇昔天朝へ忠勤ノ餘勲ヲ以テ辱クモ累代防長二州ノ地ヲ領シ一萬有餘ノ士ヲ養育シ寒而衣饑而食スルヲ得ルモノハ偏ニ天恩ノ優渥ニ因ル

ナリ汝等祖先亦皆其恩賚ニ與レリ雖然戸位素餐舊染ノ風習ニ安シ恩ヲ受テ無所酬モノ豈人臣ノ屑トスル所ナランヤ先考忠正公ニ至リ大ニ此ニ感スル所アリ抑數百年來政權下ニ移リ皇運日ニ衰替シ人民朝廷ノ尊キヲ知ラサルヲ憂ヘ奮然天下ニ先子義ヲ遠隔ニ唱ヘ艱難ヲ凌キ不逞ヲ拂ヒ再ビ天日ノ光輝ヲ拜スルニ至ル朝廷屢其偉勲ヲ賞セリ是皆汝等ノ親ク知ル所ナリ予不肖ト雖モ亦親ク公ノ教誨ヲ奉シ日夜勉勵其功績ヲ墮サントテ恐ル曩者朝政維新ノ日ニ當リ宜ク大一施設スル所アル可シ然ルニ中古群雄割

據ノ勢ニ因リ諸藩各其土地人民ヲ私有シ 朝廷ハ徒
 ラニ空器ヲ擁シ政令其實ヲ舉ル能ハズ是ニ於テ己巳
 ノ歲四藩合議シ牧籍ヲ奉還シ政令一ニ歸センコトヲ願
 フ 朝廷之ヲ採用シ我ヲ待ニ不オヲ以テセズシテ更
 ニ知事ノ職ヲ命セラル爾來勵精聊藩政ヲ釐正スト雖
 モ未タ其治績ヲ奏セス因テ惟フニ予ノ汝等ニ於ル吾
 臣ノ名義ハ既ニ藩籍奉還ノ時ニ盡ルト雖モ依然トシ
 テ舊領地ヲ管スルヲ以テ猶或ハ君臣ノ餘習ヲ存シ隨
 テ藩政モ亦私情ニ流レ措置其宜キヲ得ルコト能ハズ此
 等因襲ノ弊今ニ於テ一洗セズンバ何ヲ以テ 政令一

ニ歸シ人民 朝廷ノ尊キヲ知シ故ニ比來又予カ官ヲ
 解ンコトヲ願フ數日ナラズシテ廢藩為縣ノ令下ル且本
 官ヲ免シ縣廳事務ノ如キハ暫ク參事ニ任ス於是予カ
 素志始テ貫徹スルヲ得感激ノ至ニ堪ヘザルナリ予ハ
 今ヨリ 闕下ニ住シ親シク 聖旨ヲ奉承シ日夜奮勵
 知識ヲ磨キ陋習ヲ洗除セントス此ノ時ニ當リ汝等若
 シ舊情ニ拘泥シ疑惑ヲ生スルコトアラバ其責予ノ不職
 ニ歸シ 朝廷ニ對シ奉り深ク恐悚身ヲ措クニ地ナシ
 願クハ汝等能ク祖先諸公及ビ忠正公忠勤ノ遺意ヲ感
 戴シ且ツ時勢ノ變遷ト制度ノ改革トヲ推考シ公義ヲ

取リ私情ヲ舍テ予々心事ヲ洞察シ今春告諭スル所ノ如ク各其職ヲ勉メ前途ノ目的ヲ定メ祖先以來朝廷ノ爲ノ盡ス所ヲシテ能ク始アリ又終アラシメバ汝等祖先亦眉ヲ地下ニ開カン然レバ則予カ幸ノミナラズ祖先諸公在天ノ靈モ亦其誠意ヲ鑒賞セラレン

○頃日坊間ニテ茶番狂言ノ太閤記十段目亂案ヲ見タリ一官人陣羽織ヲ著シ軍扇ヲ持テ床几ニ倚リ群卒ニ令シテ曰山崎合戦ノ後明智遣逃セリ汝等社寺士民ノ差別ナク明智ノ在ル所ヲ探報セヨト群卒拜伏シテ唯々ス官人入りテ後群平方サニ起ツ其装羽織袴ニテ短

刀ヲ帶ガ宛モ近日府縣小吏ノ如シ四方ニ分散シ人ゴトニ問テ曰ク汝家ニ明智ナキヤト一人更ヲ指シテ曰官明地ヲ求メテ何ヲカナス曰ク悉ク桑茶ヲ植シムト觀衆絶倒セガルハナシ

○今般田中冬藏青木精一村上要信ノ三人官許ヲ得テ米國ヨリ教師ヲ招キ音讀ハ洋人ニ託シ會讀ハ三人之ヲ司リ愛宕下ニテ日新義塾ト號ケシ語學義舎ヲ開キ塾中ノ費用モ頗ル少分ナリト云

外國新聞節譯

去年寺佛戰爭中字兵ノ手ヘ分捕タル佛ノ小銃彈藥大

砲及其他ノ軍器數多東洋ノ國ニ買入レントス既ニシ
 ヤスポー銃及ビ其他ノ元込銃八萬挺程 日本政府へ
 譲渡ノ義ヲ約セシ由當時ベルリン府ニテモシヤスポ
 ー銃五十六萬挺餘アリ是皆戰爭中ニ分捕セシ物ニテ
 其内廿萬挺ハ「スタラスホルグ」及ビ「メッツ」兩所ノ武庫中
 ニテ得シ者ニテ盡ク新製ノ銃ナリ右ノ外千八百六十
 六年「埃斯多里」及ビ「獨逸南部聯邦」ヨリ分捕リ又「ステイ
 ド」ハ「ノーウエル」ドレスデン及ビ「ブラグ」各所ノ武庫ニテ
 分捕セシ小銃合セテ十二萬挺アリ「ベルリン」ニ於テハ
 右分捕ノ品々ヲ貯藏スルニ地ナク五千門ノ「佛蘭西野

戰砲及ビ「ミテレイール」砲ヲ其府外ノ訓練場へ移セ
 リ又千八百六十四年中「テスマルク」國トノ戰爭間「ダ
 ジ」ユッペル及ビ「アルセン」各所ニテ分捕セシ大砲輕砲合
 シテ七十門餘アリト云此戰爭中宇ノ方ニテハ一門ノ
 砲ヲモ敵ニ奪ハレザリシトソ實ニ可驚コトナリ○此
 度「日耳曼」ニテハ一法令ヲ立日耳曼列國ノ總軍ハ砲兵
 歩兵ニ新式ヲ一定セリ然レバ右分捕ノ軍器ハ總テ無
 用ノ物トナルベシ尤「シヤスポー」銃ヲ「ウエルトル」形新式
 ノ銃打銃ニ變製スルニハ其費用此少ニテ出来セル由
 ○字佛戰爭中宇ノ士官死傷ノ大畧戰死歩兵士官千五

十九人騎兵士官七十六人ナリ戦間士官ノ病死五百人
了リトツ

任議長

工部大輔後藤元輝

任工部大輔

租税頭 伊藤博文

任少議官

出石縣知事 從五位 仙石政固

任租税權頭

大藏大丞上野景範

任德島縣大參事

井上高格

任津縣大參事

藤堂高克

任和歌山縣大參事

從五位 津田正臣

任福岡縣大參事

岩國縣權大參事 從五位 塩谷 慶

任盛岡縣大參事

岡田種井

任長崎縣大參事

森岡清元衛門

○弘前縣青森ニ移サレ青森縣ト改稱セラレタリ

○今般東京ヨリ長崎マデ傳信機ヲ設ケラル線路如左

東京、品川、横濱、程ヶ谷、戸塚、藤澤、大磯、小田原、箱根、沼津、原、
吉原、蒲原、由井、奥津、江尻、静岡、鞠子、岡部、藤枝、鳴田、金谷、日、
坂、掛川、袋井、見附、濱松、舞坂、荒井、白管、二川、豊橋、御油、赤阪、
藤川、岡崎、池鯉鮒、鳴海、熱田、名古屋、清須、一宮、岐阜、河渡、美、
得寺、赤坂、岳井、関原、今須、柏原、醒井、番場、鳥居本、彦根、西京、
大坂、神戸、姫路、藤井、尾道、廣嶋、山口、赤間、関、福岡、佐賀、長崎、

○岸和田縣水嶋善一郎發明ニテ招根油ヲ新製セリ從
 來ノ種油ニ比較スルニ招根油七合ニテ種油一升ニ敵
 當シ火勢一陪盛ニシテ其價亦頗ル廉ナル由山野招根
 ニ富メル地其製場ヲ盛ニセバ利用更ニ大ナラン
 ○當秋ノ農作諸國一般ニ豊饒ナリシ由就中此頃九州
 ノ報聞ヲ得タルニ兩肥ハ十二分ノ豊作ナリ獲筑八十
 分ニテ豊前上ニ同シ豊後之ニ次ク薩日隅何レモ宜シ
 尤モ日隅ハ薩ニ稍勝レリトゾ

新聞雜誌第十六號終

報告

横濱ヨリ海外諸港へ來往セル佛朗西飛脚船航資此
 度廢價ニ相改ルノ表

横濱ヨリ	第一等	第二等	第三等	第四等
マルセイユ迄	四百四十元	三百三十元	百九十九元	百三十三元
ポールのナイド迄	四百十二元	三百十元	百八十五元	百二十四元
イスマイリア迄	四百三元	三百二元	百八十二元	百二十一元
シコエー迄	三百九十四元	二百九十六元	百七十七元	百十九元
アデン迄	二百六十三元	百九十七元	百十九元	七十九元
カルキユッタ迄	三百十一元	二百三十四元	百四十九元	九十四元
マドラス迄	二百七十四元	二百六元	百二十三元	八十三元
ホンヂセリイ迄	二百七十四元	二百六元	百二十三元	八十三元
ホアントドカド迄	二百四十六元	百八十五元	百十元	七十四元
按答勝画迄	二百九十七元	二百三十三元	百三十四元	八十九元
聖嘉波波迄	二百三十六元	百七十七元	百七元	七十二元
サイゴン迄	百九十元	百四十三元	八十五元	五十八元
香港迄	百十九元	八十九元	五十四元	三十六元

第一等航資ヲ出ス旅客ハ船艙ニ在ル部屋并ニバツトリ
甲板下ノ上ニ於テ兩臥床附ノ室孰レニテモ望ミニ任
セテ之ヲ擇バシム

右第一等中ニハ食物并葡萄酒等ヲ入レ置ケリ
一個臥床或ハ兩個臥床附ノ室別段ニ好ノ旅客ハ第一
等航資ノ外右航資總高ノ半價譬バ四百元ノ航資ナレ
バ其半二百元ヲ別ニ拂ヒ出スヘシ
航資表ノ外別ニ出帆着帆ノ日期表アリ之ヲ略ス

一千八百七十一年第九月六日 日本七月二十日

橫濱ニテ 佛國飛脚船會社名代アコニール

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ル本會同
其旨意前ニ述レタル如ク但奇事異聞目録及ク凡庸事類ノ同好ノ人
何事ニヨラズ其要ヲ新聞ノ書庫ニ奉納及ヒ下ノ列スル貴社寄セ玉
ハ次第ニ刊行致スル所也且舊書及古書月六日其住處姓名ノ名ヲ載セ玉
可シ無名ノ書ハ取テ米入トシ無限ノ淨書造紙アルヲ忌ム
一切賣買ノ引等類ニヨリテ七版スル事件
一田地山林家屋角車等賣買借借
一產物器具食料藥劑等一切賣買
一諸船入港出帆積荷物件等
一店ヒラキ新現賣出等引
一失物尋物等
右等何レ一行止三字一度出板價ニ宛宛同事件ノ月令ノ多
三、月分、廿四日及分六、月分、廿四日、引受ニテ

緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セザルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗ニテ疑懼ムク多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カ、ル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 大政ノリヲヒ知ラテ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢ガタキ世ニ生レシカヒ
 ナン今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ愛革
 又六里巷ノ瑣事外國ノ異聞マテ見聞ニ随ヒ刊行スハ我 日本國中
 ノ人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頃才心僻メル事ヲ棄ンテナリ願ハ此冊子
 ヲ讀マフスルヲ聞ラニテ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ノ驚可ク
 喜可ク事多ク唯一隅ヲ見ルハ田舎人タルヲ免ヒス夏虫氷ヲ疑ノ笑有リト知
 玉ハサテソノ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ベケレ

新聞雜誌第十七號

明治四年辛未

○古器ノ珍藏シ以テ保全スベキ所以ハ制度沿革ヲ考
 証スルノ一端ニシテ叨リニ破壊ス可ザルト已ニ 聖
 諭ノ降ル所ナリ頃自後四位德川昭武 聖旨ヲ奉シ貯
 藏ノ古樂器及ビ舞樂裝束等 官庫へ献納有タリ其碩
 文ノ畧并樂器品目カノ如シ 小石川元水 戸縣邸園中
 涵徳亭ニ於テ光國以來相用齊昭代ニ至リ別テ愛藏仕
 置候古樂器類目錄ノ如ク何卒献納仕度云々 琵琶二
 面 銘 小席 箏 二弦 銘 立田川 琴 四弦 銘 聞天、周南、笙
 若杉 箏 二弦 銘 天人 琴 四弦 銘 虞舜、大雅

五管 銘五鳳九、菊壽九、女子 筆策一管 銘小男 笛四管 銘
蘆田鶴花月九、太鼓二鼓 羯鼓二鼓 鉦鼓二鼓
古獅子田伏

弘前縣權大參事杉山龍江同木村建同小參事佐藤
正熙同岩淵直惟同神盛苗等辭職上表寫

臣等伏テ言ス 太政復古萬機更始ノ日ニ際シ嚮ニ誤
テ參事ノ重任ヲ辱シ荏苒奉職於今曾テ尺寸ノ功ヲ奏
セズ願ニ素餐ノ責逃ル、所ナシ臣等實ニ恐悚ノ至ニ
不堪今ヤ 朝廷新ニ藩ヲ廢シ縣ヲ置有_レ名無實ノ弊ヲ
除キ大ニ制度ヲ一ニシ以テ萬國ト對峙セントス 皇
連隆盛日ヲ期シテ見ルベシ然_レ凡賢ヲ舉能ニ任シ 聖

謨ヲ贊成スルニ非ズンハ又焉ソ其効ヲ致サシ願ニ臣
等素ヨリ薄徳菲才自ラ過ヲ補フニ暇アラズ豈敢テ再
ビ僥倖ヲ望メンヤ即チ謹テ別紙辞表ヲ奉シ以テ 朝
命ヲ待唯恐クハ道路遼遠 命下ル當ニ日アルベシ然
シテ縣事百端一日其務ヲ曠フスベカラズ是ニ於テ臣
等相共ニ忝議假リニ參事ノ事ヲ撰執シ以テ且夕 朝
裁ヲ仰ク耳是臣等惓願ノ至ニ勝ヘズ云々又同縣權大
參事大道寺繁禎同少參事山野元敏同様辞職ノ上表セ
ル由

横濱刊行ジヤハンガセツト新聞節譯

此度佛國ヨリ字國へ差出ス戦争償金五十億フラング
凡我十ヲ或人試ニ佛國五フラングノ金貨ヲ以テ精算
セシニ此重サ五千五百萬斤ナリ若シ是ヲ連接シテ地
上ニ布ケバ殆ト地球ヲ一周ス又是ヲ積重ヌレハ高サ
千六百七十六里ノ金柱トナルベシ此柱ヲ巴里斯ノ中
央ニ建テ試ニ伯靈都府ノ方ニ向テ倒サバ伯靈ハ金柱
ノ長ク三分一ノ處ニアルベシ又人アツテ一字間ニ一
萬ノ五フラング金貨ヲ算ヘ上ル割合ヲ以テ一ケ年三
百日ト定メ毎日八字間ツ、算ヘ立レハ其人三十歳ニ
初テ七十歳ニシテ笑ヘ終ルベシト云リ○東海道路傍

ノ並木ハ夏ハ日陰ヲナシ冬ハ風雪ヲ防ギ且ツ其觀美
ニシテ大ニ旅情ヲ慰スルモノナリシヲ近頃東京ヨリ
大坂へ傳信線ヲ懸クル為メ横濱小田原ノ間此並木ヲ
切拂ヘリ此ノ如ク切ラズトモ決シテ暴風ノ為メニ破
ラル、ノ患ハナカルヘキニ大ニ街道ノ風景ヲ失ヘリ
傳信線ヲ張ルノ後ハ他日必ズ鐵道モ設ルナルベシ其
時ニ及テ復ビ植ルモ能ハズ實ニ殺風景ト謂フベシ○
上海日刊新聞ニ云シヤンムト云船ニテ天津ヨリ一萬
六千テールノ程ノ棹金ヲ上海ノ商社へ積ミ送りシニ
盜ノ爲ニ奪ヒ取ラレ其蹤跡更ニ分ラズ穿鑿中ナリ

○先頃武州千住邊ノ商人山谷土手ヲ通行ヒシニ借提
 ノ絹衣裳ニテ駕籠ノ内ヨリ呼止メシ者アリ誰ナラン
 トヨク見ルニ預見知タル元織多ノ者ニテアリケリ
 彼云フ吾等多年吉原樓上ノ宴游ヲ羨ミ居シガ此回ノ
 御仁政ニテ始テ宿志ヲ遂ルヲ得タリ已ニ昨夜モ一
 大樓ニテ頗ル歡樂ヲ極ム今ヤ即チ再盟ヲ尋ントス幸
 兄ト同伴セバ如何ト商人漸ク事ニ托シテ辞シ去レリト
 ○頃日吉原何樓カ知ラズ元織多ノ者一娼婦ニ通ヒシ
 ニ兼テ富有ノ者ナレバ流石ニ娼妓モ一時我身ノ助ケ
 ニヒント之ヲ騙シ愛シケレバ誠真已ニ情アリト思ヒ

許多ノ金錢ノ盡ルモ知ラズ衣類迄モ典却シ猶情好ヲ
 求ノシニ娼妓ハ最早是迄ト見限り愛想眷戀ナキノミ
 ナラズ刺へ一首ノ狂歌ヲ讀ミ與ヘシトゾ其歌ニ「宿縁
 カ織多ガ狐ニダマサレテ毛物ドコロカ身ノ皮ヲハグ
 男モ頓ル洒落モノト見ヘテ其反歌ニ「其昔シ毛物ハギ
 タル報ヒ来テ身ノ皮キリテ肉ニ喰ハル」想フニ先日
 山谷ニテ商人ニ誇リシハ定テ此者ニテヤアラシカ
 ○箕作大六倫敦ヨリ其父秋平ニ送レル書中ニ豚兒健
 康ニシテ勉學セリ比日學校ノ試業アリ幸ニ尤ノ如ク
 六課ノ褒賞ヲ得タリ 英學 數學 地學第一等 測

地學第二等 地圖ヲ画ク術 佛學第三等 兎此度ラ
 チン并バリシヤ學ニ達セザルノミニテ進テ大學校ニ
 入ル能ズ實ニ遺憾ニ堪ズ今ヨリ更ニ憤勵此ニ科ヲ研
 究シ來歲ハ必ズ大學校ニ入ルヲ期セリト云々 又三
 宮某ヨリ添贈ノ書ニ云令息勉學無他近來大ニ進歩ア
 リ已ニ此頃試業ニ六課ノ褒賞ヲ得タリ一課スラ頗ル
 難キ事ナルニ六課ニ至テハ實ニ驚嘆ニ堪ズ令息ノ師
 タル者モ其穎敏ヲ稱贊セリ此事一時新聞紙ニモ出テ
 英國内ニ傳播シ 皇國留學生ノ面目ニ關係セル丁ニ
 テ僕々輩モ大ニ悦喜セリ少年生徒之ノ聞カバ又憤發

ノ一助トモナランカト云々

横濱刊行「ジャツハン」ヘラルト新聞抄譯

今朝 九月廿日 我 德嶋縣ノ船ボシウ丸品川へ入港ノ砌
 東京ヨリ横濱へ至ル日本ノ荷船ニ衝突セリ德嶋士官
 ノ意ヲ用ヒズシテ其船ヲ取扱ヒタルトハイナガワ船
 ニ乗組タル外國人皆之ヲ見タリ然ルニ德島ノ船ハ彼
 荷船ノ沈没セシヲ救ハンガ為ニ蒸氣ヲ止ントモセズ
 直今ニ駛セ去レリ碩クハ德島縣ヨリ此隣ハベキ舟夫
 等ニ厚ク償アル様ナシタシ○洋銀ノ相場下落シテ百
 元ニ付一分銀三百三十五箇ニ至レリ 銀五十匁ニ
 分五厘 ○蠶

印紙ノ買人ハ大抵既ニ此地ヲ出立シテ歐羅巴ニ歸レ
リ之ニ由テ價下落シ極上品一枚僅ニ廿五匁ヨリ四十
匁ノ間ナリト云日本人明年ハ例年ノ半高ヲ造リテ是
迄ニケ年ノ損失ヲ償ハント云實ニ日本人ハ多ク生糸
ヲ作りテ蚕印紙ヲ減スベキナリ○普ノビスマルクト
埠ノビウストトノ近頃ノ高議ニテ日耳曼埠地利魯西
亞以太利ノ諸國和親ノ盟約アリ他日若シ歐洲ノ靜謐
ヲ攪擾セント企ル者アラバ此諸國奉テ之ヲ伐ント約
セシ由ノ風説アレ此ハ一般ニ信用シガタシ又埠地
利帝日耳曼帝ト次週ニサルスブルグニ會シテ國事ヲ

議セントスルノ説アリ殊ハ實説ナラン○佛蘭西國會
ニ於テ劇論兩日ノ間續キテ竟ニ千エル氏ニ共和政治
ノ大頭領ノ稱號ヲ與ヘ其行事ヲ會議衆ニ答フ可クハ
諸宰相ヲ黜陟シテ可ナルノ全權ヲ許スノ建議書ヲ出
セリ○ストラスブール故ト佛ノ地ニ萬三千餘ノ人民
佛蘭西瑞西及米利堅ニ移住セントテ當地ヲ去レリ若
シ此割合ニ移住スル者引續クナラバ久シカラズシテ
アルサスノ地ニハ一人モ住スル者無キニ至ルベシ此
事件佛國ヨリ見ルトキハ頗ル愉快ニ思フベシ且佛國
ハ敗衄ノ後ト雖厄猶人望ノ歸スル所アルヲ見ルニ足

レリ然レモアルサス人移住ヲ弭メテ猶其處ニ止リ居
ラハ却テ國家ノ為ニハ善謀ナラン○九月廿日横濱碇
泊ノアル船ニ於テ先日東京ノ船頭ヲ砲撃シタル口
スリンテウリ」名人ノ事ヲ裁判アリタリ同人六百フ
ングノ過料ヲ出シ其上ニケ年ノ入牢ヲ命ゼラレタリ
○先般東海道熱田鳴海ノ間桑名四日市ノ間ニテ兩度
劍便飛脚ヲ切害シタル盜賊アリシニ官ヨリ沿道ノ
縣々へ嚴重探索捕縛セシムベキノ命下リ此節右賊魁
滑川源吾彌藤次ヲ初メ數名ノ黨類悉ク召捕ニ相成タ
ル由誠ニ尋常市街ノ飛脚ト變リ當ニ衆人ノ辨用ノミ

ナラズ重キ官廳ノ公用ヲモ建スル劍便ナレバ右様
異變ノ時モ官ノ取締嚴重ニテ直キニ賊徒捕縛ニ就
キ後來防護ノ方法モ更ニ確立スルニ至ルモノ實ニ四
方通信者ノ大幸ト云ベシ殊ニ右切害ニ逢タル者ヲ憐
マセラレ其家族共へ許多ノ金子ヲ賜ハリシ由仁慈ノ
恩政感奉スルニ餘アリト云ベン
○或人云從來ノ文學ハ皇漢二國ノミ今ヤ五大洲ノ
學興レリ此ニ達セザレバ通儒ト稱シ難シ今ノ學者豈
一層勉強セザル可ンヤ古人寸陰ヲ惜ム今人宜ク分陰
ヲ惜ヘシ閑話ハ邦人ノ通病ニシテ偶一箇ノ用事ヲ説

ントスル前後必ズ徒爾ノ閑語ヲ雜ヘリ甚キ者ハ終日
 徹夜空ク口舌ヲ費シ宛モ醉人ノ重語病客ノ謔言ニ等
 シ此等ノ人ハ自ラ事業ヲ成ス能ハサルノミナラズ大
 ニ他ノ勉強ヲ妨ケリ洋人ハ絶テ此惡習ナシ米人ケ
 ロン曾テ言フ日本人ノ我ヲ訪フ者多クハ米國ノ寒暖
 如何ヲ問ニ過キズ夫米國ノ寒暖ハ地理書ニ在テ詳ナ
 リ何ゾ必シモ此等無用ノ談ヲナサント此言吾輩頂門
 ノ一針ナリ總テ人ヲ訪フニモ已カ閑暇ナルヲ以テ他
 ノ繁務ヲ顧ミザル者アリ注意セザルベケンヤト

新聞雜誌第十七號終

報告

余壯齡ヨリ特ニ心ヲ眼科ニ專ニシ西籍ヲ涉獵スル
 既ニ久シ然レ從來傳フル所ノ方法據ル可キ者甚稀ナ
 リ勤モスレバ輒為メニ卷ヲ掩テ嘆惜ス蓋西醫ノ道日
 新ノ業ナリ其治術ノ梗概ヲ舉レバ則物ニ格リ知テヲ
 致シ其理ヲ明瞭シテ以テ其秘ヲ探リ其源ヲ窮ム晩近
 ニ迨テ其學大ニ進ミ眼科治法發明スル所ノ者亦鮮カ
 ラズト為ス故ニ昨日治セザルノ病今日治ス可シト為
 ス者往々之アリ乃官暇其書ヲ譯述シ一ハ則其法ヲ發
 シテ以テ世ニ布キ一ハ則其術ヲ施シテ以テ病ヲ治シ

遂ニ闔境ノ士民ヲシテ眼目ノ患ヲ除カシメント欲ス
 是レ吾ガ疇昔ノ宿志ナリ然レ官途鞅掌東奔西走シテ
 久シク其業ヲ廢ス而シテ今復官暇將ニ素志ヲ償テ以
 テ蒼生ヲシテ開化ノ餘澤ニ浴セシメントス若シ眼ヲ
 患フ者來テ治ヲ求ルコトアラバ誤認テ坊間尋常ノ販藥
 者流ト為スコトナカレ 家ハ東京牛籠御門内飯田町北
 二合半坂下ニアリ 三浦有恒謹白
 一孝佛戰記 芳川春濤先生譯 初篇二篇
 右私店ニ於テ發兌仕候間 御求奉_レ布候

東京日本橋通一丁目
 須原屋茂兵衛

撰者伏テ四方ノ君子ニ告_レ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
 其旨意ハ前ニ述_レル所ノ如シ但_レ奇事異聞耳目ノ及バサル處多シ願_レ久_レ同好ノ人
 何事ニヨラズ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
 ハ次第ニ刊行發兌スベシ但_レ寄玉_レ書付ニ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉_レ
 可シ無名ノ書ハ敢テ采入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ル_レナリ
 一切賣買ノ弘_レ等望ニヨツテ出版スル事件

- 一 田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
- 一 新發明巧器及書籍等ノ賣買
- 一 產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
- 一 金銀具外ノ貸借等
- 一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
- 一 失物尋物等
- 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一 觀セモノ集會等ノ引札
- 右等何レモ一行廿三字一度出板價三匁宛同事件一ヶ月分ハ八匁五分
- 三ヶ月分ハ廿四匁五分六ヶ月分ハ四十六匁ニテ引受イタシ候

新聞雜誌定價

一號定價銀二匁 當分一ヶ月三號宛出板

一三ヶ月分引受候向定價ヨリ一割半引

一一年分ハ三割引

六ヶ月分ハ二割引

右定、通約定前金受取候六毎號發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望ミ入本局引合上御相談可申候

東京小川町今川小路

本局

日

新堂

同西國横山町三丁目

賣弘所

和泉屋金右工門

明治辛未十月

定價二匁

水部

新聞雜誌

第六號



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルニ
樂シキハトシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑惟ト多ク奇ニ我ヲ
是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
太政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ運カタク世ニ生レカ
ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
又八里巷ノ噴事外國ノ異聞ヲ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國
ノ人ト新知ヲ開ク樂ヲ同シ頑ナル心僻ノル事ヲ棄ントテナリ願ハ此
ヲ読玉ノ人トテ聞テニ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ニ驚
喜可キ事多ク唯一隅目ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レス夏虫氷ヲ疑メ夏有リト
知モハサテソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カシト云ビケレ

新聞雜誌第十八號 明治四年辛未

○今秋中東京府下寄留ノ人員 官ヨリ御調べ有シニ
通計十萬九千六百七十四名ナル由今春土著ノ人員六
十七萬二千七百四十七名アリシ由其後ノ増減及戸數
族類等ハ近日之ヲ詳聞シテ掲出スベシ嗚呼開化ノ初
運ニ當テ都府ノ盛ナル猶如此他日文運益開ケバ其熾
昌更ニ數倍スルニ至ラン
○東京小石川大門町淺野傳吉同富阪町山崎梅吉同姓
金太郎右三名ハ輕跳ヲ業トシ過ル慶應第三ノ春ヨリ

西洋諸國ヲ周遊シ殆ト六年ノ春秋ヲ經今秋九月ニ至
 リテ方メテ歸朝セリ西州中ノ人深ク之カ技藝ヲ感賞
 セル由カ、ル一小技ヲ以テスラ其術ニ巧ミナルニ至
 レハ海外ヲ遍遊シ名譽ヲ宇内ニ鳴セリ況ヤ士君子タ
 ル者此開化ノ運ニ際シテ文藝ニ志ナク功名ノ繙スベ
 キナキ者ハ實ニ輕技三名ノ者ニモ如ズト云ベシ
 ○檳羅縣士族小高作太ト云者九月廿三日ノ夜芝増上
 寺内瑞蓮院へ強盜ニ推入抜刀ニテ金子ヲ劫掠セント
 セシニ院内ノ侍山本德次郎立合ヒ雙方手疵ヲ負マデ
 ニ禦キシ故摠ナク遁去リシガ作太奸智ヲ回ラシ縣廳

ヲ欺テ云ルニハ昨夜半愛宕下邊ニテ何者カシラス三
 人不意ニ切掛リシ故直ニ抜合セ雙方手疵ヲ負ニ至リ
 テ三人共遁去リ遂ニ其踪跡ヲ失ヘリト瑞蓮院賊ノ始
 末ヲ府廳ニ訴ヘシニ檳羅縣廳ヨリモ亦愛宕下ノ事ヲ
 訴ヘ事頗ル不審ナリケレバ直ニ作太ヲ鞠問セラル、
 ニ固ヨリ當場ノ奸智ニテ縣廳ヲ欺キシ事故具始末合
 ズ却テ其人相等瑞蓮院ヨリ訴ルニ符合シ陳言ヲ構ル
 ニ由ナク遂ニ白状ニ及ベルゾ 官德次郎ノ功ヲ賞
 シテ金千匹ヲ賜ヒ手疵療養ノ手當トシテ金二千匹ヲ
 賜ヘルヨシ實ニ德次郎主家ノ爲ニ豪盜ニ當テ屈セザ

リシコト感賞スベキノ至リナリ柳モイ小高作太士族ノ身
ヲ以テ劫盜ノ態ヲ學ブ其醜心惡ムベキハ論ナシ巧ニ
奸智ヲ回ラシ其迹ヲ覆サントシ却テ自ラ露ロ白ハシスルニ
至ル天ノ欺クベカラザル豈懼レザルベケンヤ

右大臣岩倉具視

特命全權大使トシテオウヘイ歐米各國ヤウロウアメリカへ被差遣ノ命アリ

參議 木戸孝允

大藏卿大久保利通

工部大輔伊藤博文

外務少輔山口尚芳

特命全權副使トシテ歐米各國へ被差遣ノ命アリ

外務少丞田邊太一

外務大記塩田篤信

福地源一郎

前件ニ付一等書記官トシテ隨行

外務大記柴田昌吉

外務少記渡邊洪基

小松濟治

川路簡堂

前件ニ付二等書記官トシテ隨行

○左院中更ニ左ノ通置レタリ

大議生 六等官 中議生 七等官 少議生 八等官

○今般海軍設備實地考覈ノ爲メ龍驤日新二艦各國津港へ被差向ノ旨御布令アリタリ

○東京ヨリ陸奥國青森驛マテ鑛道御開キ可相成ニ付差向キ傳信機御取建相成旨御布令アリタリ

○今般東京三井八郎右衛門同次郎右衛門同三郎助同元之介小野善助嶋田八郎右衛門右六名ノ者相謀リ自費ニテ鑛渡へ新一橋ヲ架シ往還人ノ便ニセンコトヲ願ヒシニ 官許有タル由

○物ノ齊シカラザルハ物ノ情ニテ價ヲ一ニセンコトハ智巧ヲ塞グノ道ナリトテ此項西京ニテハ湯錢ノ一定セルヲ改メ其浴室ノ善惡ニヨリ價ノ高下ヲ自在ニスルコトヲ許サレタリ要スルニ浴湯職業ノ者社ヲ結ビ制ヲ立テ人ノ生活ヲ束縛スルニ近キノ弊アルヲ改メ且浴室ハ人體ヲ清潔ニスベキ場ナレバ其結構モ自ラ美麗潔淨ナラシメンガ為ナリ又男女混淆ノ弊未タ止マズ之ヲ禁スルヲ最嚴ナル由

○「カルホニヤ新聞中ニ魯西亜政府ヨリ朝鮮」ロツリコ
ンヤン朝鮮キヤン地名境界ニ在ル支那殖民ヲオドセシ由ナリ全

體不開墾ノ地ニ人民ヲ殖スルハ大ナル利益ナルベキ
ニ是ハ魯西亞兼テ朝鮮ヲ企望シテ支那人今日ノ所業
ハ後來ノ害タランコトヲ察セシ故ナルベシ魯人常ニ
支那人ハ却テ此國ヲ貧窮ナラシメ又決シテ家族ヲ率
ヒテ此國ニ殖民スルヲ務メズ故ニ之ヲ遠クベシト云
ヘリ之タ朝鮮人ハ西教ヲ學バズ沐浴禮スラ之ヲ忌ム
程ナレバ支那人ノ信スル佛教ハ魯人ノ爲ニハ大ニ妨
ナルベシ魯人ハクサル教ヲ信仰セサル者ハ敢テ善良
ノ民トナサズ故ニ彼國ニ於テハ外國人ニ婦人ヲ妻ハ
ス以前ニ必ズ此教法ニ入ラシムル由○魯西亞ハアム

ル及ビ支那國境内へ通用スル貨幣ヲ極テ小サク製
シ眞價ヲ低クシ銀貨ヲ支那へ輸スルコトヲ防ゲリ譬
バ魯國內ニテ二十セントノ貨幣ハ其實ハ十二セント
ノ價ナリ故ニ極テ減價ナラデハ外國へ運フコトヲ得
ズ蓋シ魯人固陋ノ見ニテ總テノ産業ハ紙幣ヲ以テ營
ミ眞ノ通用銀ハ總ニ存スル位ニシテ其國內ニ銀貨ヲ
多ク蓄積セントノ趣意ト見エタリト云々
○先頃常州眞僻郡大國王村某宅へ暴賊三人劫掠ニ入
リ翌日同村勸農役國友雄次郎へ之ヲ訴シニ依テ早速
之ヲ搜索セシムル所古郡村ノ荒屋ニ異風ノ男四人卧

居タル故同村勸農補小幡五平直二近村ノ者數百人ヲ
 集メシニ賊早クモ之ヲ知リ遁去ントスルヲ雄次郎ハ
 僕清吉ニ鎗ヲ持セ自ラ短銃ヲ携ヘ賊ノ前途ヲ遮テ清
 吉ニ持セシ鎗ヲ取り御上意也ト一喝セシニ四賊一同
 白鉢卷ニテ各自又ヲ構ヘ且三人ハ隻手ニ短銃ヲ持テ
 毫モ降ル色ナケレバ雄次郎短銃一發放テ懸ケシニ誤
 テ發色セズ賊モ雄次郎ヘ向ケ三銃一連ニ放懸シニ是
 亦發声セズ其間已ニ咫尺ニ逼リ直ニ賊兼吉ヲ目掛ケ
 胴中ヲ突透シケル内甲州無籍仙太郎後口ヘ廻リ雄次
 郎ヘ切掛ルヲ振返テ又仙太郎ノ股ヲ突貫タリ其内各

村ノ者共馳付賊ハ直ニ遁去ルヲ捕縛役已之吉子政吉
 鎗ニテ賊兼吉ガ小鬢先ヘ衝掛ケ躊躇所ヘ雄次郎ガ僕
 清吉右腕ヲ一太刀切付ケ遂ニ生捕タリ雄次郎ハ復々
 仙太郎ト奮戦シ遂ニ難ナク突伏タリシガ両度ノ深手
 ニ弱リケン賊忽チ絶息セリ殘賊二人源吉ハ大勢ニ圍
 レ勢力盡テ縛ニ就キシトゾ雄次郎天稟軟弱ノ質ニテ
 數強賊ト戦ヒ遂ニ奇功ヲ奏セシコト膽力想フベシ
 官雄次郎ヲ賞シテ金一萬匹白絹一匹ヲ賜ヒ清吉已之
 言ヘモ金千匹宛賜リタルヨシ
 ○歐米留學生鹿兒嶋縣士某ヨリ友人某ヘ贈レル書中

二先頃ハ英^{イギリス}ニテ大^大調練^{調練}アリタリ此節ハ更ニ普風^{ソシヤフウ}ニ則
リ大抵四萬人ノ兵ヲ兩分^{フタツニ}シ一ヲ敵兵トシテ既ニ海軍
ヲ壞^{クサ}リ上陸シテ龍動^{ロンドン}ヲ襲擊^{シウケキ}スル者トシ一ヲ味方トシ
テ龍動ヲ防護^{ホウゴ}スル者トス其體^{タイ}只銃砲ニ彈丸^{ダンガン}ヲ込^コズ又
現ニ刀劍ヲ不用ノミニテ互ニ斥^モ候間諜^{シニヒ}等ヲ用ヒ敵情
ヲ探^サリ不意ヲ襲^ウフナド皆實地ノ戦争ニ不^フ異^ヘ遊軍總督
ヅウリケンブレダ其餘有名ノ兵家ヲ以テ檢察使^{ケンサツシ}トシ
テ互ノ勝負ヲ論決セシム其中ニハ外國有名ノ士官モ
雜^シハリ此節ニテハ歐米各國ヨリ名士ヲ請待^{ヒツクダシ}シテ之ヲ
見セシメ自在ニ評論^{ヒョウロン}センコトヲ乞^コヘル由獨^{ドク}ヨリハ先

度ノ戦争中世子ノ參謀^{サンボウ}タリシアルモンタルナル者未
見セシト也此英ノ大調練ニ付キ初メハ種々ノ説起^{セツキ}リ
兵備^{ヘイビ}不十分ニシテ軍務局^{グンムク}ノ人其任ニ非ズナト誹謗^{ヒイボウ}
ケルガ此度ハ格外ノ上出来ニテ今ニテハ英人モ少シ
ハ安心ノ様子ナリ○英米ノ間先度ヨリ爭論ニ成居シ
アラバマ船ノ一條モ此節ハ兩國一致^{イチ}シスウ井ツニ於
テ兩國ノ使節并他^{ホカ}三ヶ國^{サンケク}ヲ以利^リスウ井ツ政府ヨリ撰^{セン}
ビシ人ノ論決ヲ乞^コヒ互ニ公論ヲ以テ處置スル事二十
レリ又スウ井ツニ於テハ諸方ノ士謀^{ホウ}平會^{ヘイカイ}ト云一ノ集
會^{カイ}ヲ催^ヒセリ是ハ年来在リ来リシ事ニテ今年モ例ニ依

テ也ト集會人ハ多ク獨佛人ナリ其論旨ハ所謂兵者凶器也戰者逆德也ノ意ヲ主張シ關戰ハ人道ニアルマシキ事ニテ是非之ヲ止ルノ道ヲ講究セントノ意ナル由サレド是只可言シテ不可行ノ事ナランカ併シ征戰攻伐ヲ務トシ滅國殺人ヲ習トスル國風中ニハ如此ノ論アルモ亦面白シト云々

○佛國馬術師スーリエナル者東京招魂社地ニ於テ曲馬ノ技觀ヲ開カントテ先日ヨリ技場結構ニ及ビ愈近日ヨリ開場セル由

新聞雜誌第十八號終

引札

西洋衣服類品々

奇ナリ妙ナリ世間ノ洋服頭ニ普魯士ノ帽子ヲ冠リ足ニ佛蘭西ノ沓ヲハキ筒袖ハ英吉利海軍ノ裝股引ハ亞米利加陸軍ノ禮服婦人ノ襦袢ハ膏ニ纏テ窄ク大僕ノ合羽ハ脛ヲ過テ長シ恰モ日本人ノ臺ニ西洋諸國ハギ分ケノ鍍金セルガ如シコハ御客様方ノ罪ニアラズ事物ヲ知ラザル唐物ノ古着屋歟サナクハ袋物師ノ變化タル洋服仕立屋ノ所為ナラン此度私店ニ於テハ西洋ノ仕立師ヲ召抱羅紗ッラ子ル其外

反物精製最上イマダ日本人ノ目ニ觸ガル程ノ名品
ヲ本國ヨリ取寄御注文次第御銘々様ノ御身丈ニ合
セ一分一厘ノ大小ナク仕立致シ番ノ外ハ一切手袋
手拭ニ至ルマデ時々ノ流行ニ從ヒ正真ノ洋服取揃
極テ下直ニ奉差上候間多少ニ不拘御用被仰付被下
置候様伏而奉希候

横濱五拾番
東京表茅場町
柳屋 店

○十月廿日ヨリ日數廿日ノ間東京兩國萬八樓ニ於テ
動植金石其他今古中外ノ物品博覽ノ會アリ

撰者伏テ四方ノ君子ニ告グ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及ハサル處多シ願クハ同好ノ人
何事ニヨラズ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
ハ次第ニ刊行發兌スベシ但寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

- 一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件
- 一新發明巧器及書籍等賣買
- 一田地山林家屋舟車等賣買賃借
- 一金銀其外ノ賃借等
- 一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
- 一失物尋物等
- 一諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
- 一店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一觀セモテ集會等ノ引札
- 右等何レモ一行サ三字一度出板價三匁宛同事件一ヶ月令ハ八匁五分
- 三ヶ月分ハ廿四匁五分六ヶ月分ハ四十六匁ニテ引受イタシ候

新聞雜誌 第十九號

新聞雜誌定價一號銀二匁 當分一月三號宛出板
三ヶ月分引受候向ハ定價ヨリ一割半引 六ヶ月分ハ一割引
一ヶ年分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐々本局ヨリ御届致
候又遠方取次賣弘方望ミノ人ハ本局へ御引合上御相談可申候

本局 東京小川町今川小路 新 堂

- 東京西國横山町三丁目 和泉屋金右門
- 東京芝三島町 和泉屋市兵衛
- 大塚心齋橋通 河内屋吉兵衛
- 西京東洞院三條上ル町 村上勘兵衛
- 東京日本橋通壹町目 須原屋茂兵衛
- 大塚心齋橋通 河内屋喜兵衛
- 大塚心齋橋通安土町 河内屋清七

明治辛未十一月

定價二匁

新聞雜誌

第十九號



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未ダ見聞セザルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人心頑ニ知暗シテ疑恠ムヲ多ク竟ニ我ヲ
是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
太政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢ガタキ世ニ生レシカヒ
ナシ今官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 太政ヲ始メ諸府縣ノ變革又ハ
里巷ノ瑣事外國ノ異聞マデ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中ノ
人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻メル事ヲ棄ントテナリ願此冊子
ヲ読玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニハ我意外ナル驚
バク喜ヘキ事多ク唯一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レズ夏虫氷ヲ疑ノ笑ア
リト知士ヘサテコノ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ベケレ

新聞雜誌第十九號

明治四年辛未

○房州嶺岡ニテ牧養セシ白牛ハ最モ美乳ヲ出ス由ニ
テ此節雉子橋勸農役邸ニテ右ノ牛乳ヲシボリシヲ宮
内省へ御買上ニ相成 主上日々兩度宛御服用遊サ
ル、由

○先頃英ノ軍艦志州の屋浦ニ碇泊シ英人六名遺歩ノ
為上陸セシニ閩巷徘徊ノ間不圖途ヲ失ヒ困惑シケレ
ドモ語暗通セザレハ其云フ所何事ナルヲ解スル者ナ
ク偶一醫生鳥羽縣廳マテ伴行シニ縣廳ニテモ一人ノ

英語ヲ解スル者ナケレバ雙方大ニ困却セシ所幸ニ越
前書生蔣田六郎ナル者粗英語ニ通セシガ其日鳥羽ニ
碇泊シ居ケル故英人ノ言フ所初メテ解リ直ニ小舟ニ
テ的屋ノ軍艦マテ護送シ縣吏ヨリ蔣田生ヘハ厚ク禮
謝ヲ述タル由此日蔣田生居合セズハ鳥羽ニテハ最モ
不都合ナルコトナラン依テ思フニ此事独リ鳥羽ノミ
ニ局ラス方今ノ形勢総テ外艦ノ繫泊スル諸港ニ於テ
ハ預メ用意無シバ非ランカ

○今般開港開市場有之府縣一等譯官ハ等ヨリ七等譯
官對官マテヲ置ル、ノ令アリタリ但シ東京大坂新潟

箱館ハ追テ定メラル、ノ由

○宮津縣舊知事從五位本莊宗武歎願書ノ畧ニ云 己
已版籍奉還已後鴛鴦猶知事ノ重任ヲ辱シメ居候處今
般更ニ廢藩免職被仰付候ニ付テハ萬民保全ノ御趣意
從是相貫キ可申ト奉恐悅候然ル處此儘荏苒年月ヲ累
子候テハ報恩ノ素志可相遂時節無之ニ付此程米利堅
國農學局長ケプロン被召寄北海道開拓被仰付候由仰
冀ハ同人ヘ隨從仕朝ニハ實地開拓ノ事業ヲ熟視シ夕
ニハ農籍等ノ教示ヲ受ケ粉骨碎身從事勉勵仕候ハ、
聊華族積習ノ陋弊ヲモ一洗仕且ハ 皇恩奉報ノ素志

モ相貫キ可申愚願此事ニ御座候間ケプロン隨從ノ儀
 御許容被成下度奉懇願候右ニ付テハ外國人接待ノ都
 合モ御座候ニ付位記奉還仕度不堪至願云々
 ○先般東校御雇入ノ獨^ド乙^イ第一等醫官ミユルレル同第
 二等醫官ホフマシ^シ兩員奉朝ノ節 勅語ニ○汝等来リ
 テ我邦東校醫學ノ教導ヲ主^ツル汝カ勞力精詣朕已ニ之
 ヲ聞ク爾来勉勵其道ニ達スルノ生徒ヲ益繁長セシメ
 ヲ○兩員奉答 勅語懇^コ薦^ニ外臣答フル所ヲ知ラズ我字
 國政府臣等ヲシテ此大任ニ當ラシム誠ニ臣等ノ面目
 タリ政ニ罷^ヒ勉^シ事ニ從ヒ 皇帝陛下及ビ我政府ノ臣等

ニ信任スル所ヲ曠^クフセザランコトヲ是願フト
 ○痘瘡ハ人間一世ノ難症ニテ父母タル者之カ預防ス
 ベキハ勿論自今小兒生レテ七十五日ノ後ハ必ズ左ノ
 姓名ノ醫官ヘ銘々相對ニテ種痘ヲ頼ミ天然痘ニ罹ラ
 ガルヤウ可致旨御布令アリタリ醫官ハ左ノ十一名也
 大野松齋^{下谷金} 奥山玄仲^{芝赤羽} 吉田親安^{東校}
 中野良範^同 中川良二^{日本橋本} 赤城良閑^{青山宮}
 吉田文輔^{下谷中} 竹井隆玄^{赤坂} 桂川甫真^{浅草新}
 村田甫忠^{芝町} 村井養脩^{美倉}
 ○海外留學生ヨリ贈レル書中ニ佛國ニテハ内亂鎮靜

ノ後彌共和政治ノ政體ヲ取立彼ノチエルナル者ヲ以テ大紗領トシ當分ニテハ全國集議院モ休息ト相成平穩ノ姿ニ候一旦ハ色々ト事六ヶ敷同氏モ憤激シテ辭職セントセシテ數回併シ今佛國ニ於テ此人ノ外ニハ別ニ事ヲ執テ人ノ兼伏スル者無之今度ハ從前ノ如ク只假ノ大紗領ニ非ズシテ真ノ紗領トナレリ實ニ此人ハ年七十ヲ越ヘ數度執權宰相等ノ大職ニ升リ自ラ大事ヲ施行シ幾回モ艱苦ヲ經又當時有名ノ歴史家ニシテ能古今ニ達セシ人ノ由ナレバ衆民ノ服スルモ理ナリ併シ後年ノ慶ハ容易ニ論シ難シ何則今佛國ニ於

テ五派ノ黨アリ則古宗家是ハ那翁第一世ノ佛國ヲ治來立リシ孫ノ一也ヲリヤニイスト家是ハ那翁第三ノ所ノ子孫ヲ立ント那翁家是ハ今ノ那翁一ノ派ナリ和家是ハ共和中ニ張スルモノ共ニテ激烈共和家大抵過激トスルニ於テハ一十リト云モ是黨中最其志甚シキ由然テ彼ノ盟首ナリ「如此國論數多ニ分レ居ル慶今ノ共和政治ハ此頃總ニ一定セシ事ニテ終極ノ所全國ノ衆議ニ懸ケ彌佛國後來ノ政體ハ是ト決定スルノ時ニ至テハ假令幸ニシテ流血ノ難ナキモ少シク紛擾ノ憂ナキト不能ラント被察候〇獨逸ハ其後異儀ナ

シ國中モ一同愷和ノ姿ニテ慶々ニ於テ凱陣ノ祝儀等
 有テ衆民モ先満悦ノ體ナリ普帝モ先日ヨリ今ニ慶々
 ノ湯治場等へ縱遊ニテ昨年来苦辛ノ鬱散ト見ユ又ビ
 スニルクモ同様ナリ然シ兵備ハ怠ラズ手ヲ盡セリ又
 何カ目當モ有ルカノ一ズ杯モ其後益手ヲ入レ修覆増
 加シ従前ヨリモ猶更堅固ノ由是ハ左モアルベキトニ
 テ佛人ハ是非カノ舊土ヲ復サントノ志ノ由世評ニハ
 若今佛ニ再起スル程ノ力アラバ明日ニモ師ヲ出シテ
 復讎ヲ謀ランニ必勝ノ勢アリ故ニ有為ノ志ナキニ非
 ス只為ス所ノカナケレバナリ彼ガンベータハ高名ノ

人ナリ其論ニ今佛ニ於テ只二條ノ急務アリト第一ニ
 ハ國中ノ衆民ヲ不殘學問ヲサセン為能ク教育ノ道ヲ
 設テ愚蒙ヲ開ク事第二ニハ獨逸ニ則リ國民ヲ以テ皆
 兵トシ衆民ヲシテ都テ兵戰ノ道ヲ知ラシムルトノニ
 事ナリト云シ由然シ此論通りニハ行兼ヌルベシ免モ
 角モ數年ヲ經ザル内必ズ此兩國ノ間再ビ事有ルニ相
 違ナカルベシト云々

○倉敷縣管下阿嘉崎村小野幸藏東森源三右二人ノ者
 從來 天恩奉戴ノ志深ク方今更ニ普率ノ物悉ク天
 朝ノ有ニシテ一モ私有所ル理ナキ所以ニ感シ所持ノ

家財返上致度旨出願シケレ氏御採用ハ無リシ由

○棄児養育米ノ儀自今所口預ケ貫ヒ請ニ不拘當歳ヨリ十五歳ニテ年々米七斗宛被下候間實意養育スベキ旨御布令アリタリ

○從來人民輻湊ノ地ニテハ河流ニ死屍ノ漂フヲ夥シケレト之ヲ埋藏スル者モナクテ其儘者過スルヲ風トセシガ此節浪華ニテハ新ニ御布令アリテ石漂骸ヲ見出シ訴ル者ニハ錢十貫文之ヲ訴ヘテ埋藏スル者ニハ同三十貫文ノ褒賞ヲ賜ル由風俗ヲ淳良ニシ河流ヲ清潔ニスルノ政意深ク贊美スベキ者ト云ベシ

○方今府下人車ノ熾ナル市街モ塞ル計リナルニ或預固ノ駕籠屋獨リ古風ノ棄リ行ヲ歎キ居シニ同シ頑論ノ漢學先生此頃洋學ノ熾ニ行レテ已カ家學ノ衰ルヲ歎キ同氣相求トテ或日互ニ語り合ヒ歎息シケルガ一開化ノ書生之ヲ諭シテ云ク傳ニ云ハズヤ人車ニ敵ナシ横行疑フ勿レト子等ノ憂ル亦晚カラズヤ

○黒羽縣權太參事太治泰秀同梁瀨昌幸少參事大塚延接等願書ノ畧ニ云 今般廢藩為縣有名無實ノ弊ヲ獨キ政令歸一ノ境ニ至ラシム臣等積年ノ期望スル所豈可不欣躍哉大綱已ニ立ツ細目ハ隨テ舉ルベシト雖モ

臣等此盛世ニ向テ一日モ偷安ニ忍ビズ早ク士族卒ノ
世祿ヲ廢シ尊大ノ弊習ヲ忘レント欲ス然レモ目前ノ
生計ヲ顧ミズ人民ヲシテ遽ニ其慶ヲ失ハシメバ却テ
盛世ノ鴻業ヲ妨クルニ似タリ故ニ臣等熟議ヲ遂ケ請
フ所ノ件々許可ヲ蒙リ漸ク以テ農ニ歸スルノ方策ヲ
立ントス人材ハ政教ノ基也國家ノ元氣ナリ今ノ時ニ
方リテ尤クベカラズ然ルニ僻郷ノ人民從來教ナシ
故ニ各分ヲ知り時勢ニ通スル者幾希ナリ然則今日ノ
急務ハ教化ヲ布キ人材ヲ育スルニアリ假令人民生産
ヲ遂クルト雖モ教ナキ時ハ何ノ用ヲカ為シ然ルニ前

知事大関増勤成辰ノ戦功ヲ賞セラレ高一萬五千石ヲ
拜賜ス抑成功ハ固ヨリ 朝廷ノ赫威ニシテ諸藩ノ盡
忠ニ因ル増勤ニ於テ尺寸ノカアルニ非ズ長ク 皇恩
ヲ叨ニスルヲ怖ル因テ今之ヲ固辭セン一ヲ欲ス只
其少分ヲ乞テ前ニ陳述スル如ク前年来創設ノ教授ヲ
普補シ益諸藝ヲ講究シ智ヲ研キ道ヲ修メ懋メテ人材
ノ用ベキ者ヲ出シ長ク此法ヲ以テ 皇恩ヲ萬世無窮
ニ逮サン一ヲ欲ス其餘一旦歸田開墾ノ基ヲ補ヒ且戰
場死傷ノ孤獨ヲ撫恤シ而後永世之ヲ海陸軍費ニ奉獻
納度ノ旨増勤至切ノ志願ナリ云々

○東京淺草寺ニテ賽錢ノ中ヨリ貧民救助ノ為メ金一
兩宛無利足ニテ一ヶ月仕切ノ貸附ヲ始メシト云

○十月廿七日ノ夜横濱吉原町火災ニテ過半焼失シ男
女凡三十餘人死亡セシヨシ

○西曆一千八百七十一年第十月八日廿四日米利堅國
「チカゴ」府ニ大火災アリ凡全府三分ノ一戸數十萬餘
延焼セリ實ニ米國ニテ古今未曾有ノ大火ナリト又「ミ
チガン」ニテモ火災アリ「マニストル」ノ全府焼失セル由
悉クハ後號ニ記載スベシ

新聞雜誌第十九號 終

告白

洋曆千八百七十一年第十一月一日即日本明治四年辛
未九月十九日ヨリシテ予私塾ヲ開キ英學ヲ教授ス因
テ書生ノ意ニ任セ或ハ通學或ハ寄宿トモ勉メテ之ニ
教授センガ為メ朝午夕各其時間ヲ期ス願クハ入社ノ
書生怠惰ナク勤學シテ予ガ學舎ヲ設ケタル素志ニ負
カザレ

一教授ノ方法ハ先ツ最初ニ綴字ヨリシテ會話文典ニ
及ボシ夫ヨリシテ各科ヲ學バシム
一教師ノ指教ヲ守ラズシテ學業ヲ怠リ并不善ノ所行

ヲ為スモノハ除^ゾ谷^ハス

一 教授料ハ每月金三兩ト定ム

但教授料ハ每月初日ニ其月分ヲ出スベシ

一 賄^ハ方^ハ各共同シテ賄ヒ人又ハ雇^ヒ人ヲ置^クベシ教

師ハ之ニ関^セズ

右ノ如ク先ツ假^リニ條例ヲ定メタレバ志アル者ハ之

ヲ守^リ來學スベシ尚^ホ追テ細密ノ規則ヲ設^ケ四方有志

ノ輩ニ告知スベシ

築地入船町五丁目

米國 ガツナ白

撰^ビ者^ハ伏^テ四方ノ君子ニ告^グ奉^ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス

其旨意ハ前ニ述^ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及ハサル處多シ願クハ同好ノ人

何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣^弘處ニ寄^セ玉

ハ次第ニ刊行發^兌スベシ但寄^玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ス載^セ玉

可シ無名ノ書ハ敢^テ采^入セス無根ノ浮言造^説アルヲ恐^ルナリ

一切賣買ノ弘^メ等望ニヨツテ出版スル事件

一 田地山林家屋舟車等賣買賃借 一新發明巧器及書籍等賣買

一 產物器具食品藥劑等一切賣買 一金銀其外ノ賃借等

一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等 一 失物尋物等

一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札 一 觀^マモ集會等ノ引札

右等何レモ一行セ三字一度出板價三匁宛同事件一ヶ月令ハ八匁五分

三ヶ月分ハ廿四匁五分六ヶ月分ハ四十六匁ニテ引受イタシ候

新聞雜誌定價一號銀二匁 每週出板
 十冊分引受候向八定價ヨリ一割半引 二十冊分二割引
 四十冊分三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐々本局ヨリ御届致
 候又遠方取次賣弘方望ミノ人ハ本局御引合上御相談可申候

本局

東京小川町今川小路
 日新堂

- 東京西國横山町三丁目 和泉屋金右門
- 東京芝三島町 和泉屋市兵衛
- 大塚心齋橋通 河内屋吉兵衛
- 西京東洞院三條上ル町 村上勘兵衛
- 東京日本橋通壹町目 須原屋茂兵衛
- 大塚心齋橋通 河内屋喜兵衛
- 大塚心齋橋通安土町 河内屋清七

明治辛未十一月

定價二匁 

新聞雜誌

第二十號



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未ダ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑惟ムコト多ク竟ニ我ヲ
是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
太政ノ旨ヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢ガタキ世ニ生レシカヒ
トシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 太政ヲ始メ諸府縣ノ變革又ハ
里巷ノ瑣事外國ノ異聞マデ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中ノ
人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻メル事ヲ棄ントテナリ願ハ此冊子
ヲ讀玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニハ我意外ナル驚
バク喜ベキ事多ク唯一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レズ夏虫氷ヲ疑ハ笑ア
リト知玉ヘサテコノ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ベケレ

新聞雜誌第二十號

明治四年辛未

○十一月十七日大嘗會十八日豊明節會被為行ニ付全
國一般諸神社ニ於テ相應ノ神事執行衆庶一同可相祝
尚右兩日刑罰禁止セシムベキ旨御布令アリタリ
○十月廿二日廿三日廿四日ノ間華旗一同小御所ニ召
サセラレ 上親シク酒饌ヲ賜ヒ舞樂ヲ奏セシメラル
其節ノ 勅諭ニ曰朕惟ニ宇内列國開化富強ノ稱アル
者皆其國民勤勉ノ力ニ由ラザルナシ而メ國民ノ能ク
智ヲ開キ才ヲ研キ勤勉ノ力ヲ致ス者ハ固リ其國民タ

新聞雜誌第二十號

ルノ本分ヲ盡スモノ也今我國舊制ヲ更革シテ列國ト
 并馳セント欲ス國民一致勤勉ノ力ヲ盡スニ非レバ何
 ヲ以テ之ヲ致スヲ得ンヤ特ニ華族ハ國民中貴重ノ
 地位ニ居リ衆庶ノ屬目スル所ナレバ其履行固リ標準
 トナリ一層勤勉ノ力ヲ致シ率先シテ之ヲ鼓舞セザル
 ベケンヤ其責タルヤ亦重シ是今日朕カ汝等ヲ召シ親
 ク朕カ期望スル所ノ意ヲ告ル所以ナリ夫レ勤勉ノ力
 ヲ致スハ智ヲ開キ才ヲ研ヨリ外ナルハナシ智ヲ開キ
 才ヲ研ハ眼ヲ宇内開化ノ形勢ニ著ケ有用ノ業ヲ修メ
 或ハ外國へ留學シ實地ノ學ヲ講スルヨリ要ナルハナ

シ而年壯ヲ過ギ留學ヲ為シ難キ者モ一タビ海外ニ周
 遊シ聞見ヲ廣ムル亦以テ智識ヲ增益スルニ足ラン且
 我邦女學ノ制未ダ立サルヲ以テ婦女多クハ事理ヲ解
 セズ殊ニ幼童ノ成立ハ母氏ノ教導ニ関シ實ニ切緊ノ
 事ナレバ今海外ニ赴ク者妻女或ハ姉妹ヲ挈テ同行ス
 ル固リ可ナル丁ニテ外國所在女教ノ素アルヲ曉リ育
 兒ノ法ヲモ知ルニ足ルベシ誠ニ能ク人々此ニ注意シ
 勤勉ノ力ヲ致サバ開化ノ域ニ進ミ富強ノ基隨テ立列
 國ニ并馳スルモ難カラザルベシ汝等能ク斯意ヲ體シ
 各其本分ヲ盡シ以テ朕カ期望スル所ヲ副ヘヨ

○西京小學校課業表九ノ如シ別ニ小學規則一冊アリ

小學校課業表

第一等	句讀 日本外史 易知錄 萬國公法 太政諸規則	誦詠 外國旗章 外國里程 英語字五百言	習字 公用文 即題字柬	算術 平價 損益 利息 求積 衆稅
第二等	日本政記 五經 真政大意 西洋事情	內國里程 本邦環海里程 英語字三百言	世話十字文 諸券狀 諸職往來 復文	正比例例 轉比比例 合率比例 和數比例 雜題
第三等	國史畧 孟子 地理學 小地理學 生產道案内	帝號 英語字一百言	諸國郡名 商賣往來 私用文	自諸等化法 至諸等除法 五法
第四等	職員令 力籍法 學庸論語 世界國盡 究理國解	年號 國名	受取諸券 苗字盡 山城郡名 京都町名	九九合數表 乘除法 歸除法 除法
第五等	孝中制法 市中制法 郡中制法 町役村役心得 府縣名	五十韻	五十韻 平片十 數百支干 三枚御高札 名頭	數珠題目 珠題用法 各種數法 加表 減表 減法

○德島縣舊知事蜂須賀茂韶近來洋學ニ志學ク今般官ニ請ヒ其妻ト共ニ歐洲ニ渡リ益其學課ヲ研磨セントテ不日ニ出港セル由又東京府下ノ女子六七名海外留學ノ事ヲ願出シニ官許アリタル由人負名字等ハ後號ニ詳載スベシ

○東京淺草邊ノ町人實子ナキヲ以テ先年三歳ノ女子ヲ養ヒテ已ニ十二歳ニナリシニ不圖妻一子ヲ産シヨリ妻ハ乳兒ト共ニ卧シ夫ハ養女ト同衾ニ寢シカイツトナク養女ニ奸通セシヲ妻見認テ大ニ憤リケレド斯程彝倫ヲ紊リシ男ユヘ敢テ已ガ醜行ヲ改ノントモセ

ズ却テ愈妻ヲ疎ミ嫌ヒ遂ニ乳兒ヲソヘテ放逐シタリ
トゾ閨門一回亂レテ彝倫立ニ傷ル慎ザルベケンヤ
○或夜行路人ノ咄シニ當時總テノ商ヒ儲ケ薄ク骨ガ
折ル、故商人ハ禪ヲシメテカ、ルト云町人ハ金ヲ上
ゲロト云士族ハ金ヲ下ゲロト云藝妓娼婦ハ金ヲ遣ハ
セント云坊主ハ金ガ納マラ又ト云禰宜山伏ハ金ガ出
来又ト云比丘尼ハ金カ無イト云札ノ勢ヒ能ク金ガダ
レタト云金ノ急ガシキト昔二十倍セリ　ブラクトシ
テハ居ラレ又金玉ノ握ツテ暮ス人モナキ世ヤ
○龍動新報ニ云今般ヘルシヤノ飢饉ハ百年来未曾有

ノ事ニテ加フルニ時疫大ニ流行シ數多ノ人民食料ニ
差支終ニ人ノ死骸ヲ堀出シ之ヲ食フニ至リケレバ墓
所等へハ政府ヨリ番人ヲ附置キ之ヲ制スル程ノトナ
リシガ親族ノ者共自ラ子姪等ヲ屠リ食フニ至リ竟ニ
禁止スベカラズト實ニ畏ルベキト言語ニ絶ヘタリ縱
シテ開化ノ國ニテ進歩ノ實況ト云ハ兵事ノ不起ト官
更ノ給料ヲ益スト貧人ノ教化ニ服スルト又四方急報
ノ爲メ電信機ヲ張ルト荷車ノ爲メ道普請ヲスルト四
車ノ代リニ錢道ヲ開クト端船帆前ノ代リニ蒸氣船ヲ
造ルト等ニテ寂モ其證ヲ見ルベキナリ是等ノ國ニテ

ハ彼我交通運輸ノ至便ヲ得タレバ若シ右様大飢饉ノ
 憂アリトモ亦預メ之ヲ避クルノ方策アルベシ併シ三
 四百年來飢饉時疫ノ憂度々アリテ實ニ人世ニ於テ避
 クベカラザル丁ニテ其一飢饉ノ爲メ開化ノ進歩ヲ妨
 グル丁百年ノ相違アルベシトヘルシヤ國ニテハ未ダ
 電機鐵道等ノ設ナキニ依テ其損害モ自ラ他ニ數倍ス
 ルナラン今此飢饉ノ損込ヲ推策スルニ全國ヲ貫キテ
 東西南北ニ鐵道ヲ開ク程ノ費ナルベシト云々

○今般理事官トシテ歐米各國へ被差遣
 司法大輔 佐々木高行

特命全權大使會計
 兼務

○今般特命全權大使歐米各國へ被差遣ニ付隨行人員

- 侍從長 東久世通禧
- 陸軍少將 山田頭義
- 文部大丞 田中不二磨
- 戶籍頭 田中光頭
- 造船頭 肥田為良
- 式部助 五辻安仲
- 外務大記 野村 靖
- 兵庫縣權知事 中山信彬
- 神奈川縣大參事 内海忠勝

二等書記官トシテ隨行

林董三郎

三等書記官トシテ隨行

川路簡堂

四等書記官トシテ隨行

文部大助教池田政懋

同

外務大録安藤忠経

東久世侍從長隨行

宮内大丞村田經滿

佐々木司法大輔隨行

司法少判事岡内重俊

同

司法少判事中野健明

同

司法少判事平賀義質

同

長野文炳

山田陸軍少將隨行

兵學大教授原田一道

田中文部大丞隨行

文部中教授長與兼繼

同

正七位 中島永元

同

文部中助教近藤昌綱

同

文部中助教今村和郎

同

内村良藏

田中戸籍頭隨行

租稅權助若山儀一

同

阿部 潜

同

検査大属杉山一成

同

租稅權大属富田命保

同

冲 守固

肥田造船頭隨行

錢道中屬瓜生 震

○肥前伊萬里縣荒木七郎上海ニ馬路ニ開店シ大鵬踞
 ト稱シ我國ノ物産一切之ヲ鬻キ且邦人ノ商法并寄宿
 等ノ取扱イタセリ同縣田代屋慶右衛門蘓州路新大橋
 西ニ開店シ三柘踞ト呼ヒ陶器ヲ鬻ケリ又米國「サンフ
 ランシスコ」ニ於テモ同縣真崎長兵衛ナルモノ開店シ
 同ク産物ヲ鬻キ孰レモ追日繁盛ニ赴ケル由願クハ四
 方ノ大賈相繼テ渡海シ彼三子ニ後レザルヤウ憤勵ア
 リタキヲナリ

○和蘭學士畢酒林ノ語ニ富強生於民工民工出於政事

政事立於自主自主本於知識云々

○長崎ヨリ六里西ニ當リ高嶋ト云ル嶋アリ上品ノ石
 炭ヲ出セリ五六年前佐賀縣ニニ英人「ガラブル」ト申合
 セ海底數十間堀入タリ尤モ西洋器械ヲ用ヒシ故人力
 ヲ費ス一僅ニシテ其得ル所大ニ盛ナリ當節又長崎ヨ
 リ三里間香燒嶋ト云所ニテ峰某ナル者自巳ノ發明器
 械ヲ以テ堀始メシニ此處ニモ上品ノ石炭夥シト云
 ○東京芝居町ノ者ナル由淺草中田ノ髮結ト親類ニテ
 其母ニ時々金子ヲ貸借セシカ或日復來テ例ノ如ク貸
 リシニ此度ハ肯セザリシヲ怒リ手寄ノ物ニテ老母ヲ

打倒シ氣絶サセシ處髮結大ニ憤リ傍ナル包丁ヲ把テ
追カケ遂ニ殺害セシト云

○大坂造幣寮ニ於テ引續キ金銀貨幣ヲ鑄造シ其數一
日ニ七萬圓ニ至レリ内多クハ金貨ナル由

○十一月三日東京初霰寒暖計正午四十二度ナリ

○十一月八日特命全權副使木戸參議伊藤工部大輔西
國中村樓ニ於テ大ニ別宴ヲ開キ諸省ノ卿輔以下諸官
員華族其他列席ノ者二百餘名ナリト

新聞雜誌第二十號終

引札

西洋衣服類品々

奇ナリ妙ナリ世間ノ洋服頭ニ普魯士ノ帽子ヲ冠リ
足ニ佛蘭西ノ沓ヲハキ筒袖ハ英吉利海軍ノ裝股引
ハ亞米利加陸軍ノ禮服婦人ノ襦袢ハ膚ニ纏テ窄ク
大僕ノ台羽ハ脛ヲ過テ長シ恰モ日本人ノ臺ニ西洋
諸國ハギ分ケノ鑲金セルガ如シコハ御客様方ノ罪
ニアラズ事物ヲ知ラザル唐物ノ古着屋敷サナクハ
袋物師ノ變化タル洋服仕立屋ノ所為ナラン此度私
店ニ於テハ西洋ノ仕立師ヲ召喚羅紗ヲラ子ル其外

及物精製最上イマダ日本人ノ目ニ觸ル程ノ名品
ヲ本國ヨリ取寄御注文次第御銘々様ノ御身丈ニ合
セ一今一厘ノ大小ナク仕立致シ番ノ外ハ一切手袋
手拭ニ至ルマデ時々ノ流行ニ從ヒ正真ノ洋服取揃
極テ下直ニ奉差上候間多少ニ不拘御用被仰付被下
置候様伏而奉希候

横濱五拾ニ番

ロトスミンド

東京表茅場町

柳屋 店

○十月廿日ヨリ日數廿日ノ間東京兩國萬八樓ニ於テ
動植金石其他今古中外ノ物品博覽ノ會アリ

撰者伏テ四方ノ君子ニ告グ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及ハサル處多シ願ク同好ノ人
何事ニヨラズ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
ハ次第ニ刊行發兌スヘシ但寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ス載セ玉フ
可無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘等望ニヨツテ出版スル事件

一 池山林家屋舟車等賣買賃借 一 新發明巧器及書籍等賣買

一 產物器器食品藥劑等一切ノ賣買 一 金銀其外ノ賃借等

一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等 一 失物尋物等

一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札 一 觀モヒ集會等ノ引札

右等何レモ一行セ三字一度出板價三匁宛同事件一ヶ月分ハ八匁五分
三ヶ月分ハ廿四匁五分六ヶ月分ハ四十六匁ニテ引受イタシ候

新聞雜誌定價一號銀二匁 每週出版

十冊分引受候向八定價ヨリ一割半引 二十冊分三割引

四冊分八三割引

右定ノ通約定前金受取候上六每號發兌順序ヲ逐々本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望ミノ人ハ本局御引合ノ上御相談可申候

本局

東京小川町今川小路 新 堂

東京兩國横山町三丁目

和泉屋金右門

東京芝三島町

和泉屋市兵衛

大塚心齋橋通

河内屋吉兵衛

西京東洞院三条上ノ町

村上勘兵衛

東京日本橋通壹丁目

須原屋茂兵衛

大塚心齋橋通

河内屋喜兵衛

大塚心齋橋通壹丁目

河内屋清七





